

7月26日

れ い
礼

は い
拝

ま ね
招きの言葉
こ と ば

かい かい の
開会の祈り

し ゆ い の 主の祈り

てん われ ちち
天にまします我らの父よ

ねが
願わくは

み な
御名をあがめさせたまえ (つづ 続く)

みくに き
御国を来たらせたまえ

みこころ てん
御心の天になるごとく

ち
地にもなさせたまえ

つづ
(続く)

われ にちよう かに
我らの日用の糧を

きよう あた
今日も与えたまえ

つづ
(続く)

われ つみ おか もの
我らに罪を犯す者を

われ ゆる
我らが赦すごとく

われ つみ ゆる
我らの罪をも赦したまえ

つづ
(続く)

われ ころ あ
我らを試みに遭わせず

あく すぐ いだ
悪より救い出したまえ

つづ
(続 く)

くに ちから さか
国と力と栄えとは

かぎ なんじ
限りなく汝のものなればなり

アーメン

つ み こ く は く
罪の告白の

か ん こ く
勧告

^{つ み}罪^{こ く は く}の告白^{き と う}の祈祷

^{ばん ぶ つ}万物^{つく}の造^{ぬ し}り主、

^{ひと}すべての人の

^{さ ば}裁^{ぬ し}き主^{か み}であられる神よ。^{つづ}(続 く)

わたし

私たちは、あなたの

せい

いまし

したが

聖なる戒めに従わず、

うしな

ひつじ

失われた羊のように

み まえ

まよ

い

御前から迷い出で、

つづ
(続く)

おも こと ば おこな
思いと言葉と行いにおいて

つみ おか み いか
罪を犯し、あなたの御怒りを

まね
招いたことを

ふか かな
深く悲しんでおります。 つづ
(続 く)

あわ 憐れみに^と富^{ちち}んでおられる父よ。

おか つみ にく かな わたし
犯した罪を憎み悲しむ私たちに

あわ 憐れみを^{そそ}注いでください。 (^{つづ} 続 く)

^{しゅ}
主イエス・キリストにおいて

^{わたし} 私 ^{ゆる} たちを赦し、^み ^{たま} 御霊によって、

^う 生まれ ^か 変わらせ、

^み ^な 御名 ^{さか} の栄えのために

^い 生きる ^{もの} 者とならせてください。(^{つづ} 続 く)

^{しゅ}主イエス・キリストの^み御^な名に

よって^{いの}お祈りいたします。

アーメン

つ み ゆ る
罪の赦しの

せ ん げ ん
宣言

し へん か
詩編歌98

4. ^{うみ み}海に満つるものは ^{みな な とどろ}皆鳴り轟け
^ち地とそこに^す住むもの ^{どよ うた}響めき歌えよ
^{おおみず て う}大水も手を打ち ^{もろもろ やま}諸々の山は
^{とも しゆ み まえ}共に主の御前に ^{よろこ うた}喜び歌えよ。

しゅ まこと おう しゅ むか
5. 主こそ 真 の王 主を迎えまつれ

しゅ ち き たも しゅ たた
主、地に来たり給う 主を讃えまつれ

しゅ くに もろもろ たみ
主はすべての国と 諸々の民を

こうへい ぎ も さば たま
公平と義を持ちて 裁きなし給わん。

(おわり)

ぼ っ か い き と う
牧会祈禱

こ せ っ き よ う 子ども説教

だんせい じょせい
「男性と女性」

そうせい き しょう せつ
創世記2章 18～25節

カテキズム

^{とい}問74 ^{だいななか}第七戒^{なん}は何ですか。

^{こたえ}答 ^{かんいん}「姦淫してはならない」です。

とい だい な かい かみ わたし
問75 第七戒で、神さまは 私 たちに

なに もと
何を求めておられますか。

こたえ おとこ ひと おんな ひと かんけい
答 男 の人と女 の人との関係は、

かみ そうぞう しゆくふく
神さまの創造の 祝 福です。

かみ おも こと ば からだ
神さまは、思いと言葉と体を

たも もと
きよく保つことを求めておられます。

けっこん せい かつ
また、結婚生活においては、

けっこん ちか まも か てい
結婚の誓いを守り、きよい家庭を

きず もと
築くことを求めておられます。

(おわり)

そうせい き しょう
創世記1章

27 かみ ひと じぶん そうぞう
神は人を自分のかたちに創造された。

かみ そうぞう
神のかたちにこれを創造し

おとこ おんな そうぞう
男と女に創造された。

しゅ よろこ
主の喜びが

しゅ よろこ こころ
主の喜びが 心にあふれる

しゅ よろこ と
主の喜びが あふれて止まらない

こんなに ^{つみ} 罪にまみれた

わたしが ^{すく} 救われた

^{しゅ} 主イエスは こんなわたしを

^{あい} 愛してくれた

(おわり)

ウェストミンスター^{しんこうこくはく}信仰告白

第^{だい}20^{しょう}章 キリスト者^{しや}の自由^{じゆう}と、 良心^{りょうしん}の自由^{じゆう}について

2. 神^{かみ}のみが良心^{りょうしん}の主^{しゅ}であり、神^{かみ}は、
いかなることにおいても、
その御言葉^{みことば}に反^{はん}する、また、

しんこう れいはい ことがら ばあい
信仰や礼拝にかかわる事柄の場合には、

みことば
その御言葉にない、

にんげん きょうせつ いまし
そのような人間の教説と戒めから、

りょうしん じゆう
良心を自由にされた。

りょうしん
したがって、良心のゆえに

きょうせつ しん
そのような教説を信じたり、

いまし したが
そのような 戒 めに 従 うことは、

りようしん しん じ ゆう そむ
良 心の真の自由に背くことである。

り かい ぬ しんこう ぜつたいてき
また、理解抜きの信仰や絶対的で

む ひ はんてき じゆうじゆん ようきゆう
無批判的な 従 順 を要 求 することは、

りようしん じ ゆう り せい
良 心の自由と、さらには理性をも

は かい
破壊することである。

(おわり)

エレミヤ書^{しょう}8章

^{しゅ} ^{おお} 主の仰せ——その^{とき}時、^{かれ}彼らは

ユダの^{おう}王たちの^{ほね}骨、^{こうかん}高官たちの^{ほね}骨、

^{さいし}祭司たちの^{ほね}骨、^{よげんしゃ}預言者たちの^{ほね}骨、

そしてエルサレムの^{じゅうみん}住民たちの^{ほね}骨を

はか ひ だ かれ あい つか
墓から引き出し、² 彼らが愛し、仕え、

したが たず もと ふ たいよう
従い、尋ね求め、ひれ伏した太陽や

つき てん ばんしょう まえ
月、天の万象の前に、それらをさらす。

あつ ほうむ
それらは集められることも葬られる

ち おもて こ
こともなく、地の面で肥やしとなる。

3 この^{わる}悪い^{いちぞく}一族^{のこ}の残り^{もの}の者^{みな}は皆、

^{わたし}私^おが追^{のこ}いやった残り^{もの}の者たちの

いるすべての^{ばしょ}場所で、生^{せい}よりも死^しを

^{えら}選ぶ^{ばんぐん}だろう——万軍^{しゆ}の主^{おお}の仰^{おほ}せ。

4 ^{かれ}彼ら^いに言^いえ。

^{しゅ}主はこ^いう言われる。

^たお倒れたら、^お起^あき上^あがるのでは
ないだろうか。

^{そむ}背いたら、^た立^{かえ}ち帰^{かえ}るのではないだろうか。

5 どうして、この^{たみ}民エルサレムは

そむ もの
背く者となり

そむ つづ
いつまでも背き続けているのか。

かれ あざむ こしつ
彼らは欺きに固執し

た かえ こば
立ち帰ることを拒む。

わたし みみ かたむ き
6 私は耳を傾けて聞いたが

かれ ただ かた
彼らは正しく語ろうとしない。

じ ぶん あく く
自分の悪を悔いて

わたし なん
「私は何ということをしたのか」と

い もの ひと り
言う者は一人もいない。

みな じ ぶん みち もど い
皆、自分の道に戻って行く

せんじょう とつしん うま
戦 場 で突進する馬のように。

そら
7 空のこうのとりも

じ ぶん き せつ し
自分の季節を知っている。

やまばと つる
山鳩もつばめも鶴も

じ ぶん かえ とき まも
自分の帰る時を守る。

しかし、わが^{たみ}民は主^{しゅ}の^{ほう}法を

^し知ろうとしない。

8 どうしてあなたがたは^い言えるだろうか。

^{われわれ}「我々は^{ち え}知恵ある^{もの}者で

^{しゅ}主の^{りつぽう}律法は^{われわれ}我々と^{とも}共にある」と。

しよ き 　 　 　 いっわ 　 　 ふで
書記たちの 偽りの筆で

　 　 　 いっわ
それは 偽りとなった。

9 ち え 　 　 　 もの 　 　 は 　 　 い
知恵ある者たちは恥じ入り、おののき

　 　 と
捕らえられる。

しゅ 　 　 こと ば 　 　 しりぞ
主の言葉を 退けたのだ。

かれ なん ち え
彼らに何の知恵があるうか。

10 それゆえ、私 は彼らの妻を

た にん あた
他人に与え

かれ はたけ せいふく もの あた
彼らの 畑 を征服する者に与える。

ちい もの おお もの いた みな
小さな者から大きな者に至るまで皆、

ぼう り むさぼ
暴利を貪り

よ げんしや さい し いた みな
預言者から祭司に至るまで皆

きよ ぎ
虚偽をなすからである。

かれ むすめ たみ きず
11 彼らは、娘であるわが民の傷を

て がる い
手輕に癒やして

へい わ へい わ い へい わ
「平和、平和」と言うが、平和などはない。

かれ い はじ
12 彼らは忌むべきことをして恥をさらした。

かれ すこ は おも
彼らは少しも恥ずかしいと思わず

くつじよく き づ
屈辱に気付きもしない。

かれ たお もの とも たお
それゆえ、彼らは倒れる者と共に倒れ

かれ けいばつ とき たお
彼らの刑罰の時、よろめき倒れる

しゅ い
——主は言われる。

わたし かれ しゅうかく あつ
13 私 は彼らの 収 穫を集める

しゅ おお
——主の仰せ。

しかし、ぶどうの木にぶどうはなく

いちじくの木にいちじくはなく
葉はしおれている。

わたし かれ あた かれ
私 が彼らに与えたものは、彼らから
消え去っていた。

14 いったい わたし すわ
一体なぜ 私 たちは座っているのか。

あつ
集まれ。城壁に囲まれた町に行き

ほろ
そこで滅びよう。

われ かみ しゆ わたし ほろ
我らの神、主が 私 たちを滅ぼすのだ。

しゅ わたし どく みず の
主が 私 たちに毒の水を飲ませる。

わたし　しゅ　つみ　おか
私　たちが主に罪を犯したからだ。

15 ^{へい わ} 平和を望^{のぞ}んでも、幸^{さいわ}いはなく

^い癒やしの時^{とき}を望^{のぞ}んでも、恐^{きよう}怖^ふしかない。

16 ダンからその馬^{うま}のいななきが聞^きこえる。

その荒馬^{あらうま}のいななきに、全地^{ぜんち}が震^{ふる}える。

^{かれ}彼らは来^きて、地^ちとそこに満^みちるもの

まち
町とそこに住むものを食い尽くす。

わたし
17 私 はあなたがたのなか

へび
蛇やコブラをおくを送る。

かれ
彼らに呪文は通用しない。

かれ
彼らはあなたがたにかみつく

——^{しゅ}主^{おお}の仰せ。

18 ^{わたし}私^{かな}の^い悲しみ^{がた}は癒やし難く

^{わたし}私^{こころ}の^{よわ}心^はは弱り果てている。

19 ^き聞^{とお}け、^ち遠^{とど}くの^ち地^{とど}から届く

^{むすめ}娘^{たみ}であるわが^{さけ}民^{ごえ}の叫び声を。

^{しゅ}
「主はシオンにおられないのか。」

^{おう}
シオンの王はそこにはおられないのか。」

^{かれ} ^{かれ} ^{ちようぞう}
なぜ、彼らは彼らの彫像によって

^い ^{こく} ^{むな}
異国の空しいものによって

^{わたし} ^{いか}
私を怒らせたのか。

20 ^か刈り入れは^い過ぎ去り、^す夏は^さ終わった。

しかし、^{わたし}私^{すく}たちは救われなかった。

21 ^{むすめ}娘であるわが^{たみ}民の^{きず}傷のゆえに

^{わたし}私^{きず}も傷つき、^{なげ}嘆き、^{きょう}恐^ふ怖が

^{わたし}私^しを締めつけた。

22 ギルアドには^{こう ゆ}香油がないのか。

そこには^{い しゃ}医者がないのか。

なぜ、^{むすめ}娘であるわが^{たみ}民の^い癒やしは
なされなかったのか。

23 ^{わたし}私の^{あたま}頭が^{すいげん}水源であったなら

わたし め なみだ いずみ
私の目が涙の泉であったなら

ひる よる わたし な
昼も夜も私は泣くであろう

むすめ たみ
娘であるわが民の

さ つらぬ もの
刺し貫かれた者たちのために。

(おわり)

280. 我^わが身^みの望^{のぞ}みは

1. 我^わが身^みの望^{のぞ}みは

ただ主^{しゅ}にかかれり

主^{しゅ}イエスのほかには

よるべき方^{かた}なし。 (つづく)

(おりがえし)

^わ我が^{きみ}君イエスこそ、

^{すく}救いの^{いわ}岩なれ

^{すく}救いの^{いわ}岩なれ。

かぜ はげ
2. 風いと激しく

なみ た やみ よ
波立つ闇夜も、

いかり
みもとに 碇を

お やす
下ろして安らわん。 (つづく)

(お리카えし)

^わ我が^{きみ}君イエスこそ、

^{すく}救いの^{いわ}岩なれ

^{すく}救いの^{いわ}岩なれ。

3. この世の望みの

き ゆ とき
消え行く時にも、

こころ うご
心は動かじ

み ちか たの
御誓い頼めば

(つづく)

(お리카えし)

^わ我が^{きみ}君イエスこそ、

^{すく}救いの^{いわ}岩なれ

^{すく}救いの^{いわ}岩なれ。

4. ^み見^よぬ^う世に移りて

まみゆるその^{とき}時、

^し主^ゆの^ぎ義をまといて

^み御^{まえ}前に^た立たまし。

(つづく)

(お리카えし)

^わ我が^{きみ}君イエスこそ、

^{すく}救いの^{いわ}岩なれ

^{すく}救いの^{いわ}岩なれ。

アーメン

せつ きょう
説 教

じ ぶん みち あゆ
「自分の道を歩む」

つじ ゆきひろぼく し
辻 幸宏牧師

エレミヤ書

- ・イスラエルに罪を指摘する
- ・罪の悔い改めを求める
- ・主なる神への信仰を取り戻すように

死者に対する主による裁き

- ・主なる神は、すべての者の
行動・言葉・心の中をご存じである
- ・死んだ者の罪も、見逃されることはない
 - ・偶像：何もしない
→ 野ざらしになるだけ

偶像を追い求める者

- ・今生きる者たちへの言葉
 - ・偶像から離れなければ
- ・彼らと同じ死がもたらされる

創造の秩序に生きよ

- ・動物たち：創造の秩序に従って生きる
- ・人間：神に背き続ける
神に立ち帰ることを拒む
自らの罪を悔いることをしない

神による創造と人間の罪

- ・ 創造：神のかたち、神の姿（創世的1:26）
 - 神を礼拝し、被造物を治める者
- ・ 罪：義・聖・真実、正常を失う
 - 正常を見失い、麻痺している

神の民

- ・ウェストミンスター信仰告白20:2

- ・良心の自由に従い、
神に逆らう人たちの命令に
従う必要はない！

- ・主なる神を第一とせよ！

「平和、平和」との叫び

- 「平和」を求め、戦争する者がある
 - 隣人の苦しみを顧みない
- 平和：権力の手段として用いられる

構造的暴力

- 遠くの戦争に対しての「平和」の叫び
- 身近な所の差別・人権に配慮がない
- 身近な所における平和を築くことができないため、力の支配が生じる

悔い改めを求める主なる神

- ・我が道を歩む者
 - ・主なる神が見えない
 - ・罪に罪を繰り返す
- 主の裁き

主の裁きの時は迫っている

- ・刈り入れのとき（主の裁きのとき）が
来てから、「主はいないのか？」と
叫んでも、遅い
- ・そのときまで、主は悔い改めを
待っておられる

罪を悔い改め、主の道を

- ・「我が道」を捨て「主の道」を歩もう
- ・「私は道であり、真理であり、命である」
(ヨハネ14:6)
- ・永遠の祝福が約束されている

自らの信仰を顧みよう

- 「神を信じている」つもり、でいいかい？
 - 主の御言葉に聴くことなく、我が道を歩んでいいかい
 - 主の御前に、信仰を顧み、主への信仰を新たにしよう！

312. いづくしみふかき

1. ^{いづく}愛^{ふか}しみ^{とも}深き 友なるイエスは

^{つみ}罪^{うれ}とが^と憂い^さを ^{たも}取り去り給う

^{こころ}心^{なげ}の嘆きを ^{つつ}包まず^の述べて

などかは^{おろ}下さぬ ^お負える^{おも}重荷^にを 1/3

2. ^{いづく}愛^{ふか}しみ^{とも}深き友なるイエスは

^{われ}我らの^{よわ}弱きを^し知りて^{あわ}憐れむ

^{なや}悩み^{かな}悲しみに^{しず}沈める^{とき}時も

^{いの}祈りに^{こた}応えて^{なぐさ}慰^{たま}め給わん

3. ^{いづく}愛^{ふか}しみ^{とも}深き 友なるイエスは

^か変^{あい}わらぬ愛もて ^{みちび}導^{たも}き給う

^よ世^{とも}の友われらを ^す棄^さて去^{とき}る時も

^{いの}祈^{こた}りに応えて ^{いたわ}労^{たま}り給わん

アーメン

けん きん
献 金

かんしゃ ささ もの
感謝の献げ物

にん い きようせい
任意であり、 強制ではありません

ほう
報

こく
告

本日の予定

- ・ 泉の会・ペテロの会（礼拝後）
- ・ 夕拝（pm5:00） コロサイ書2:1～2
「愛による結び付き」

今週の予定

- 祈りと学びの会（祈祷会）
午前・夜 7月29日(水)
- 会堂掃除 第1週担当者

次主日の予定

- **礼 拝** am10:30 ※聖餐式執行
司式・説教：辻 幸宏牧師 奏楽：鈴木美登里姉
「注目を集める人」
- 定期小会・合同役員会 (pm1:30)
- **夕 拝** 8月中 休会

541. しょう えい 頌 栄

ちち み こ
父、御子、みたまの

おおみかみに、

ときわにたえせず、

みさかえあれ、みさかえあれ

アーメン

しゆく
祝

ふく
福

さんしょう
アーメン三唱